

県立図書館だより

平成24年2月

青森県立図書館報 第12号

図書館ボランティア募集

青森県立図書館では、平成24年度より図書館ボランティアによるサービスを開始いたします。

次のような図書館サービスのボランティア活動をしてみませんか？

詳しくは、当館のホームページ (<http://www.plib.pref.aomori.lg.jp/>) をご覧いただくか、一般閲覧室のカウンター職員にお尋ねください。



資料配架活動

- 一般閲覧室で、返却された本を書棚に戻したり、書棚の本を正しく並べる活動です。
- 週に1回2時間の活動です。
午前の部 10:00~12:00
午後の部 13:30~15:30
- 募集人員
月曜日から金曜日までの曜日ごとに
午前3人、午後3人 (計30人)

※活動開始予定：平成24年4月

利用案内活動

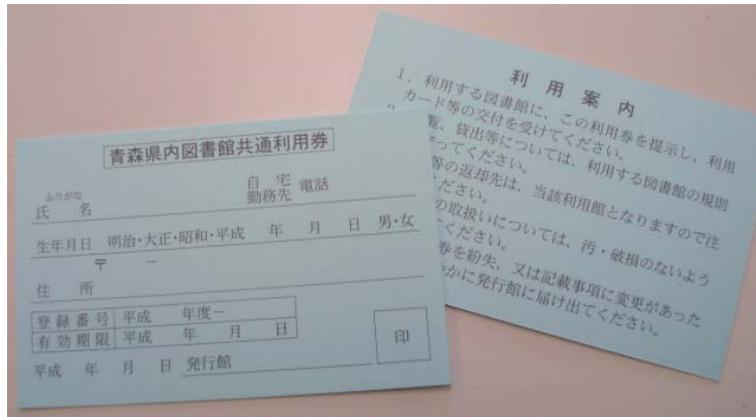
- 一般閲覧室カウンターで、初めて利用する方に借り方を説明するなどの、利用案内の活動です。
- 週に1回2時間の活動です。
午前の部 10:00~12:00
午後の部 13:30~15:30
- 募集人員
土曜日と日曜日の曜日ごとに
午前1人、午後1人 (計4人)

※活動開始予定：平成24年6月

目次

図書館ボランティア募集	1
青森県内図書館共通利用券	2
こんなレファレンスがありました	3~4
子どもの本の紹介	5
郷土資料の紹介	6
近代文学館資料の紹介	7
カウンターから一言	8

青森県内図書館共通利用券



1 青森県内図書館共通利用券とは？

市町村立図書館・公民館図書室等は自治体の公共施設ですので、原則として、利用者は居住する地域の図書館・公民館図書室しか利用できませんが、青森県内図書館共通利用券があれば、利用者は、**県内のどの館でもサービスを受けることができる便利な制度**です。

2 共通利用券を作るには？

共通利用券は、青森県立図書館または、利用者が居住もしくは通勤・通学する市町村立図書館・公民館図書室等で作ることができます。

年齢制限はありません。

発行時には住所が確認できるものが必要です。

3 有効期限は？

共通利用券の有効期限は、発行した日から**3年間**です。

4 利用方法は？

利用したい図書館・公民館図書室等に共通利用券を提示し、貸出館の手続き方法や利用方法で利用してください。借り受けた資料は貸出館に返却してください。

また、相互貸借や購入リクエストは居住する地域の図書館等で行ってください。

問い合わせ先

青森県立図書館 企画支援課

TEL : 017-739-1456

○この制度は、青森県図書館連絡協議会の加盟館の相互連携・協力によって行われています。

こんな レファレンスがありました



(第12回)

参考・郷土室では、「探している本が、どこの図書館にあるのか知りたい。」「こんなテーマの本はありますか。」「こういう事柄や人物を調べたいが、どんな本がありますか。」などというレファレンス（質問）に、図書館資料等を使って、お答えしています。

そのレファレンスの中から、郷土や最近の話題を取り上げて紹介していきます。

今から40年ほど前、作家の山口瞳さんが出演した、或る伝説を題材にしたCMが話題となりました。その伝説の舞台は津軽。月の夜、北国から渡ってきた雁と津軽の人たちの話です。

今回はこの「雁風呂」「雁供養」という伝説の話を紹介します。

【質問】 津軽の民話に「雁風呂」というものがあるそうですが、原典、そして現在活字になっているものを教えてください。

【回答】

「月の夜 雁は木の枝を口に咥えて北国から渡ってくる。飛び疲れると波間に枝を浮かべ、その上に停まって羽根を休めるといふ。そうやって津軽の浜までたどり着くと、要らなくなった枝を浜辺に落とす。

日本で冬を過ごした雁は早春の頃、浜の枝を拾って北国に戻って行く。雁が去ったあとの浜辺には、生きて帰れなかった雁の数だけ枝が残っている。浜の人たちは、その枝を集めて風呂を焚き、不運な雁たちの供養をしたという。」



満月の夜、ほの明るい浜で焚き火を囲みながら、浜の漁師とお酒を飲む山口さんの映像とともに、この伝説がナレーションで流れ「日本人って不思議だなあ。」と、山口さんの語りで終わるといふのが当時のCMです。

放映されたのは昭和49（1974）年ですが、現在も、この伝説についてお問い合わせをいただくことがあります。インターネット上の辞書やホームページなどでは「外ヶ浜」を舞台とした、津軽の伝説・民話として紹介されています。

ところが、青森県立図書館で所蔵している数多くの民話・伝説集のどれを探しても、“青森県で採話された”“〇〇村に伝わる”といった青森県の民話・伝説として掲載されている本はありません。

では、津軽の伝説・民話とされているのはどうしてなのでしょう。

『津軽の伝説1』（北方新社）で、著者の坂本吉加さかもとよし加さんは、CMを見て、はじめて「外ヶ浜」を舞台としたこの伝説があることを知った。調査をしたが、青森県内では伝承されていもりやまたいたろうない。唯一書かれているのは、『青森の伝説』の森山泰太郎さんの一文であるとしており、その中で森山さんは、「～外が浜のどの村で、いつごろから伝えられたものか明らかでなく、しよせんは都びとの文芸的空想から生まれた話であろう。」と書いています。

はたして本当に、陸奥から遠く離れた京の都でこの伝説は生まれたのでしょうか。

『津軽の伝説1』で坂本さんは、調査の結果として「雁風呂」の記述がある古文書を二作品挙げて解説しています。それによると「雁風呂」の話は初めて記録したのは京の豪商

「万屋」という商家の主であり、随筆家の「百井塘雨^{ももいとうう}」が書いた『笈埃随筆^{きようあいずいひつ}』だろうか、としています。作品の成立年（いつ書かれたものか）は不明とされていますが、百井塘雨の没年は寛政6（1794）年となっています。この随筆では「南部津軽口」「奥南部」と記述があり津軽を連想させますが、断定はできません。

もう一つは、南方熊楠が「常世国について」という論考で取り上げ、「～俗に外ヶ浜の雁風呂湯と言う、と見ゆ。」と記述している『採薬使記』の「雁風呂」が、津軽の地名を確認できた最初の史料であるとしています。『採薬使記』の成立は宝暦8（1758）年で、江戸の人、阿部照任、松井重康の撰です。

都びとや江戸の人が書き記したにしても「南部津軽口」「奥南部」、「外ヶ浜」とある以上「～しよせんは都びとの文芸的空想から生まれた話～」と片付けてしまうのは釈然としません。

そこで、「雁風呂・雁供養」が江戸期には俳句の季語として使われていることから、様々な事物を取り上げた書物によって、広く庶民に知られていたのではないかと調査したところ、『滑稽雑談^{こつけいぞうだん}』四時堂其諺^{しじどうきげん}著の卷之十六の二四が「雁風呂 落雁木」の項目となっており、以下のような記述がありました。

「或説伝、越國の海嶋にて、鴈の社渡る時、鴈の街たる牧木を落とす所侍る、海島の社は是を拾ひて、風呂をたくの薪とす、故に是を鴈風呂と伝よしいへり。」

この書の成立は正徳3（1713）年で、作者の四時堂其諺は京都安養寺正阿弥の住僧です。「南部津軽口」「奥南部」、「外ヶ浜」どころか「越國の海嶋」とありますので、他国の海に浮かぶ島の話として伝わっているということになります。

以上のことから、「雁風呂、雁供養」は津軽・外ヶ浜に独自に伝わる話ではなく、遠いみちのくの地に思いを寄せた都びとが文芸的な脚色をし、その話が後世に伝えられたものと考えて良いようです。

【紹介した史料の活字本】

「笈埃随筆」…『日本随筆大成 新装版 第2期 第12巻』吉川弘文館 1994年

「採薬使記」…『採薬志』という資料に所収されています。

「採薬志」…『近世歴史資料集成 第2期 第6巻』科学書院 1994年

『南方熊楠全集 第3巻』平凡社 1971年

『滑稽雑談 第二』国書刊行会 1917年

【その他参考資料等】

『新装 俳句歳時記【春】』平凡社 2000年

『国書総目録』、『国書人名辞典』岩波書店

『日本古典籍総目録』（国文学研究資料館データベース）

『大漢和辞典 第10巻』諸橋轍次著 大修館 修訂第一刷 1985年

●レファレンスは、電話・手紙・FAXのほか、電子メールでも受け付けています。

レファレンス申込み及び問い合わせ先

青森県立図書館 参考・郷土室

電話 017-729-4311

FAX 017-762-1757

電子メール sanko@plib.pref.aomori.lg.jp

子どもの本の紹介(第12回)

今回は「しかけ絵本」の世界を紹介します。

しかけ絵本の「しかけ」は、さわる、飛び出し、引っ張る、めくる、つまむ、あなあき、手紙などの付録つき、飾ることができる、舞台、絵が動いているように見える、音が出る、光るなど、さまざまな種類があります。一種類のしかけだけの絵本、いくつかのしかけが組み合わされている絵本などと、本によって「しかけ」も違います。

しかけ絵本の起源で一番古い説は13世紀といわれています。19世紀になると、イギリスのディーン社やドイツのH・グレヴェル社などから、いろいろなしかけ絵本が出版され人気を博していきました。

優れたしかけ絵本には、その作者に贈られる「メッゲンドルファー賞」(Awarded by The Movable Book Society)という賞があります。賞の名前の「メッゲンドルファー」とは、19世紀の代表的なしかけ絵本作家、ロタル・メッゲンドルファー(Lothar Meggendorfer)にちなんだものです。

しかけ絵本は目だけではなく、手でさわったり、耳できいたり、いろいろな角度から楽しめる本となっています。さらに、複雑なしかけの絵本では、いろいろな角度から「しかけ」をながめて、その作りがどうなっているかも楽しめます。「しかけ絵本は壊れやすい」と考えがちですが、大切に扱うことで、長くつきあえる大切な1冊になるでしょう。

県立図書館にあるしかけ絵本のなかから、一部を紹介します。

『ワドル!! よちよちあるき』

ルーファス・バトラー・セダー／さく
たにゆき／やく

大日本絵画 2009 (児小Eセダー*ル A06A)



『エッシャー ポップアップで味わう不思議な世界』

マウリッツ・コルネリス・エッシャー／画 コートネイ・ワトソン・マッ
カーシー／紙工作 菊池由美／訳 大日本絵画 2011 (児大Eエッシャー*E 集密)

さまざまな種類があるしかけ絵本は、子どもだけではなく、大人も楽しめる絵本です。ぜひ手にとって、しかけ絵本の世界を味わってみてください。きっと、たくさんの驚きや楽しみに出会えると思います。

【参考文献・ホームページ】

- ・『オックスフォード世界児童文学百科』ハンフリー・カーペンター著 マリ・ブリチャード著 原書房 1999
- ・国立国会図書館ホームページ (http://rnavi.nedl.go.jp/research_guide/entry/post-233) (2011.1.11確認)
- ・The Movable Book Societyホームページ (<http://www.movablebooksociety.org>) (2011.1.11確認) 他

郷土資料
の紹介
(第12回)

青森県立図書館では、青森県に関する資料や青森県内で刊行された資料、青森県在住者・出身者の著作物等を郷土資料として積極的に収集し、永く保存するとともに、県内外の皆様に広くご利用いただいております。

このコーナーでは、当館所蔵の郷土資料の中から、普段はあまり人目に触れる機会の少ない貴重な資料などをご紹介します。

去る平成23年7月29日、**日本画家・工藤甲人氏**が95年の生涯を閉じました。大正4年、弘前市の農家に生まれた工藤氏は、昭和9年に画家を志して上京。日本画の伝統にとらわれず、植物や昆虫・小動物などを繊細な線で描く幻想的な作風は、新しい日本画のスタイルを確立したとして、芸術選奨文部大臣賞や毎日芸術賞を受賞するなど、高い評価を受けました。また、昭和37年に神奈川県平塚市に転居した後は、作品を発表するかたわら、東京芸術大学や沖縄県立芸術大学で教鞭をとり、後進の育成にも力を注ぎました。

工藤甲人氏のご冥福をお祈りするとともに、追悼の意を込めて、今回は『**工藤甲人表紙画集**』（青森県 1972）をご紹介します。

青森県の広報誌『県政のあゆみ』昭和46年5月号から翌47年4月号までの表紙を飾った絵と、巻末に掲載された「表紙のことば」など、計13枚を紙製のケースに収めたこの画集の中で、工藤氏は「私の絵は、今回に限らずいつも郷土の自然を思う心の中にでき」と、故郷への想いを明かしています。

また、自分の作品が幻想的と評されることについては、「いつも清らかで孤独でそして静か」だった郷土の自然が、もはや破壊されて失われてしまい、「結局わたくしの心の中、あるいは夢の中にしか存在しない自然」を描いているため、「私の絵が多分に幻想味を帯びて来るのはいたし方のないことなのです」（工藤甲人「郷土の自然を思って」『県政のあゆみ』）と述べています。

号を八甲田山から採って甲人としたことから分かるように、工藤氏にとって、少年時代を過ごした津軽の豊かな自然は、作品創造の源泉となっていたのではないのでしょうか。

『**工藤甲人表紙画集**』は書庫に保管しており、閲覧・貸出が可能です。ご希望の方は当館職員にお申しつけください。



近代文学館資料の紹介(第12回)

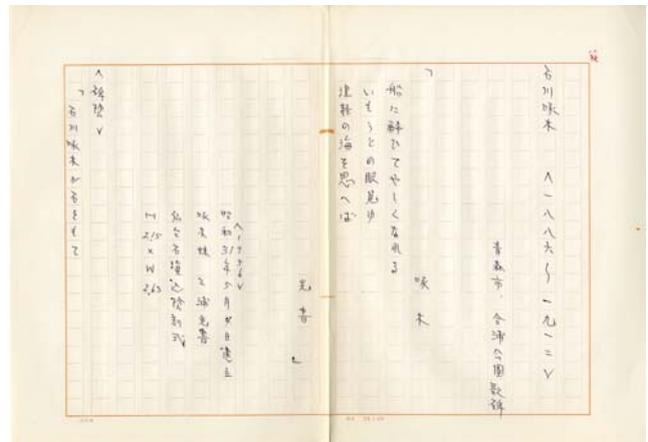
原稿「青森県の文学碑」と拓本「福士幸次郎文学碑」

青森県近代文学館では、1月21日から3月25日まで拓本研究家工藤四代治の遺した拓本と原稿を中心に新収蔵資料展「拓本でたどる青森文学の旅」を開催しています。今回は、工藤四代治の資料の中から2点を紹介します。

工藤四代治原稿「青森県の文学碑」

工藤四代治(1909-1984)は、約6年間の中国滞在中に中国人の専門家から拓本の技術を学び、詩や俳句を創作する傍ら、旺盛な拓本活動を行いました。

採拓した碑について、碑文や碑陰をはじめ詳細なデータをまとめ、地元である黒石の碑を取り上げた『青森県の文学碑 第一集』(昭和44年9月)、弘前と五所川原周辺についての『青森県の文学碑 第二集』(同46年2月)、第一集の改訂版『青森県の文学碑1』(同52年3月)を刊行しました。残念なことに、第三集以降は未完に終わっていますが、青森県内の文学碑についてまとめた540枚にのぼる未発表原稿が当館に残されています。



原稿『青森県の文学碑』
青森市合浦公園の石川啄木の歌碑の記述

工藤四代治拓本「福士幸次郎文学碑」

福士幸次郎(1889-1946)の文学碑は、弘前公園の三の丸、弘前市立博物館の裏手に、松と未申櫓と堀を背景にひっそりと立っています。碑には、幸次郎の詩「鵲」の一節「胸にひそむ火の叫びを雪降らさう」が刻まれています。

大正3年に詩集『太陽の子』を刊行し、口語自由詩を開拓した幸次郎は、今官一・高木恭造をはじめ、多くの文人に影響を与えました。

郷里の岩木山に葬られたいという幸次郎の願いはかないませんでした。昭和32年10月11日、高木恭造を代表とする有志の手によってこの碑が建立されました。



文学碑拓本 工藤四代治採拓

カウンターから一言 (第12回)



当館のコンピューターシステムが、昨年12月に更新されました。

今回は、この更新に伴って変更された点のいくつかをご案内いたします。



- **インターネット**を利用できる端末が1台増えて、**4台**になりました。



- **資料検索用の図書館情報端末機**が変わりました。(検索方法は変わりません。)

「貸出利用状況」を印刷すると、予約状況も同じレシートに印字されるようになりました。

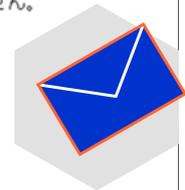


貸出票		2012/01/17 11:22	
青森県立図書館			
利用者番号: 21489978	返却期限		
津軽 太平 治 著	2012/01/31	予約人数	0人
10213536504			
生きがい。	2012/01/31	予約人数	3人
三浦 雄一郎 著		合計点数	2点
10213801099			

- **資料毎の予約者人数が、貸出票に表示**されるようになりました。

貸出期間延長ができない資料が、貸出の時点で一目瞭然。先に読む本を決める目安にすることもできます。

21001234 青森 藤子 様
 次の資料が貸出できる状態になりました。
 取消や貸出期間延長は、直接当館までお電話ください。
 このメールアドレスでの問い合わせはできません。
 (0001)
 資料番号:10211970691
 タイトル:津軽太平記
 予約日:2012/01/10
 受取期限日:2012/01/21
 受渡館:青森図



 合計:0001冊
 青森県立図書館 017-739-4211 super_wma@plib.prefaomori.lg.jp
 登録館:青森図 作成日:2012年01月11日

- **オンライン予約資料の貸出準備ができたときに送信されるお知らせメールに、資料のタイトルが追加**されました。

県立図書館受け取りの場合は、受取期限日も表示。

ご不明な点がある場合は、お気軽にお問い合わせください。

編集後記

県立図書館では「図書館ボランティア」を募集しております。これまで、県立図書館では読み聞かせ等をボランティアの方にお問い合わせすることはありましたが、図書館運営自体に関わるボランティアを募集するのは初めてのことです。

みなさんにボランティア活動を通して図書館のことをさらによく知っていただき、いっしょに図書館を育てていきたいと思っておりますので、どうぞご応募ください。